

独立行政法人農畜産業振興機構の平成 17 事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、独立行政法人評価委員会による平成17年度の総合評価が「A」評価であったこと等を踏まえ、閣議決定における年齢要件等に基づく交替以外の役員人事は行わなかった。
----------	---

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	17事業年度評価における主な指摘事項等	平成18及び19年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	○ 「情報提供業務」については、引き続き、出版物として情報提供を行っているが、配布先のニーズの変化、配布先における活用状況、配布による効果及び人件費を含めたコストの的確な把握が行われている。情報提供については、出版物の有料化の是非についても検討されているが、情報利用側にいかなる効果をもたらしているかについても検討する必要がある。	<p>【18年度】</p> <p>○ 従来から実施している情報利用者へのアンケートに加え、新たに情報利用者への面談も行って具体的な効果の把握に努め、機構の提供情報が、生産・流通関係者等による農畜産物の需給動向の把握・判断のための材料や生産者の経営安定・強化のための情報・知識の取得等に活用されていることを把握した。これらの結果も踏まえて、情報利用者の代表で構成する「情報検討委員会」において19年度の情報提供業務の計画を検討し、順次、記事・統計の内容に反映していくこととした。</p> <p>【19年度】</p> <p>○ 引き続きアンケート等による効果の把握を行うほか、ホームページの掲載情報についても、より詳細なアクセス状況の把握を行っていくこととしている。</p>
予算(人件費の見積もりを含む)、収支計画	○ 事業用資金として多額の資金を保有するので、各勘定における資金需要状況を常時的確に把握し、引き続き適正な管理に努められたい。	<p>【18年度】</p> <p>○ 事業用資金の管理運用について、独立行政法人通則法等の規定及び資金管理運用基準に基づ</p>

及び資金計画		<p>き、各勘定の資金需要を常時把握し、余裕金について格付けの高い金融機関による入札を実施することにより、安全性に留意しつつ効率的な運用を行った。</p> <p>なお、資金規模の大きい畜産勘定の資金については、補助事業の進捗状況に即して随時支出が必要な資金は大口定期預金による短期運用（1～3カ月）を行っているところであるが、当座の支出に至らない余裕金については、流動性を確保しつつも、運用期間を延長（7カ月～1年）することにより効率的な運用を図った結果、国債と同水準の利回りが得られている。預金の運用利回りは0.60%（17年度は0.07%）。</p>
短期借入金の限度額	<p>○ 国内産糖価格調整事業は制度の特性から、事業損失並びに会計年度末における期借入金が発生することは、前年度評価書において指摘したところである。17年度は、当該損失縮減に向け、対応策を講じ始めたので、18年度以降も引き続き検討されたい。</p>	<p>【18年度】</p> <p>○ 平成18年度は、改正省令に基づき、砂糖生産振興資金を繰越欠損金に充当することとして、10月末の砂糖生産振興資金残高約470億円を収益計上し短期借入金の償還を行った。また、償還後の短期借入金残額については、支払利息の軽減等、引き続き損失縮減に向けて取り組んだ。砂糖勘定の短期借入金の予算額は852億円。</p> <p>【19年度】</p> <p>○ 砂糖勘定の短期借入金の予算額は265億円。</p>

* 指摘は農林水産省独立行政法人評価委員会による。